

小浜市立地適正化計画（案）に対するパブリックコメントの結果について

- ◆意見募集期間 平成 30 年 2 月 26 日（月）～平成 30 年 3 月 16 日（金）まで
- ◆人数及び意見数 意見提出者 2 名（提出意見 1 2 件）

No.	該当箇所	市民の皆様からのご意見	ご意見に対する考え方
1	全体	<p>現時点において小浜市は既に少子化・高齢化の現状があります。とにかく出来るところから改革を始めなければ遅すぎる時期になっていると思います。20 年先の希望的な目標よりも、2 年～5 年の実現可能な目標を計画する方が現実的ではないでしょうか。</p>	<p>ご意見のとおり、既に進んでいる少子化・高齢化への対応は急務となっています。しかし人々の居住や都市機能の配置を数年で大きく変化させる事は難しく、建替えや新築等の機会に合わせて誘導していく事が必要です。本計画は、そうした誘導を進めていくことで 20 年先の目標・将来像を見据えた長期的な計画ではありますが、一方で 5 年後を見据えた目標値も設定しており、施策の実施状況や目標の達成状況を定期的に分析し、評価・検証しながら継続的に取り組みたいと考えています。</p>
2	基本方針	<p>まちづくり方針には、理想的な結果が書かれているように思います。資料としての量はあるのですが、具体的にどのように実行して、どのように実現していくのか、わかりません。</p>	<p>まちづくり方針においては、コンパクトなまちづくりを進めることにより目指すべき理想的な将来像を掲げています。この将来像を達成するため、現状の土地利用状況、まちの特性等から居住および都市機能を誘導すべき区域を定め、また誘導するために必要な施策を位置付け（本文 P113～116）、施策の実施により目指すべき目標値を設定しています。</p>

3	居住誘導	<p>小浜市街地の人口流出を止める</p> <p>小浜市は小浜駅を中心とするコンパクトな都市は出来上がっているのに、住居を離れる人がいます。利便性がある市街地に住みたいと思っているのに何故住まないのか。意識調査などで原因を調べて対策を講じれば、問題解決につながると思います。</p>	<p>市街地は利便性が高く、歩いて暮らせるエリアになっている一方で、車社会である現代においては、郊外においてゆとりのある敷地に居住を構える方も多く見られます。しかしそうした土地では今後、車が利用できなくなった場合に利便性が低下することも懸念されるため、エリア毎に将来の生活像をイメージしてもらうこと、また「このエリアなら将来的にも利便性が確保される」という区域を示すことが必要です。本計画において設定する居住誘導区域・都市機能誘導区域は、そうした将来的に利便性を確保すべき区域を示したものであり、居住地を選択する際の参考にして頂ければと考えています。</p> <p>計画書中に「エリア毎の将来の生活イメージ」を追加し、エリア毎の生活イメージが分かりやすく伝わるよう見直します。</p>
4	施策	<p>主要施設を循環するバスを厳選して残す</p> <p>観光ルートを含め、使いやすくするための時刻表の周知と、バスの広報が必要です。市内に住む人が使いやすくなれば、観光客にも案内しやすくなります。</p>	<p>本市における公共交通は鉄道およびバスであり、中でもバスは小浜駅周辺の市街地と各方面を結ぶ形で運行されています。ご意見のとおり、住む人が使いやすくなれば観光等にも活用できる可能性があり、公共交通の持続性の確保にもつながります。本計画でも公共交通の利便性向上を施策として位置付けており、コンパクトな都市構造を目指したサービス内容の見直しや周知等を進めていきたいと考えています。</p>

5	全体	<p>立地適正化計画に市民の協力を求める</p> <p>人口が少なくなっている現状で、協力は不可欠です。現実には苦しむ市民と、高い目標を掲げるお役所の方針との間に、同じ小浜に住んでいる者の改革に対する温度差を感じます。「住みよい街にする」という目標は変わらないので、出来るだけ市民が参加しやすい環境をつくるような計画であれば温度差も縮まると思います。</p>	<p>本計画を実行するためには、市民の皆様の協力が不可欠であり、まずは計画の趣旨や目標を分かりやすく伝え、意識を共有することが必要です。計画書中に「エリア毎の将来の生活イメージ」を追加したり、表現を工夫する等、分かりやすい計画づくりに努めます。</p>
6	その他	<p>計画の段階から、役所と市民が同じ方向を向くことが大切だと思います。そのためにはお互いの考え共有する会話が重要だと思います。各世代の意見交換も必要だと考えます。10代～20代の人達に計画に参加していただければ、自分たちの街が良くなっていくのを実感できるでしょう。60代～70代のお元気な方々に次の世代にどのようなまちを残したいのかを考えていただき、元気に活動していただければ良いのではないのでしょうか。</p>	<p>本計画を実行するためには、市民の皆様の協力が不可欠であり、意識の共有が必要です。それぞれのライフステージに合わせて求められる住環境は異なりますが、新たに居住を構える方、お店等を構える方が、将来の生活イメージを考えた上で立地を検討できるよう、計画書中に「エリア毎の将来の生活イメージ」を追加し、エリア毎の生活イメージが分かりやすく伝わるよう見直します。</p>
7	全体	<p>何のためにこの計画書を作ったのか読み取れません。計画を作るための計画書のように、小浜を変えていくという腹がすわったものになっていないと感じました。</p>	<p>人口減少や少子化・高齢化が急速に進むなか、現状のままの都市構造では、密度の低下により生活サービスの水準が維持できません。一方で人々の居住や都市機能の配置を数年で大きく変化させる事は難しく、建替えや新築等の機会に合わせてゆるやかに誘導していく事が必要です。本計画は都市計画マスタープランの高度化版として、20年先の将来像を見据えて誘導を進めていくための計画であり、本計画に基づいて様々な施策を実行していくことで、持続可能な都市を目指すものです。</p>

8	課題整理	<p>人口動態だけで計画は無理と思います。20年後はどんな時代になっているかという大きな視野での時代感が必要ではないでしょうか。大きな時代の流れの中で人口の流動が起こります。20年後から30年後の小浜はどういう状態に置かれているかという大きな視点から検討が必要です。</p>	<p>社会情勢の変化により、人口の流動にも変化が起こります。本計画では20年後を見据えた長期的なまちづくり方針や目標を設定する一方で、おおむね5年ごとに目標の達成状況を検証し、また時代の変化に合わせて計画を断続的に見直していくこととしています。</p>
9	居住誘導	<p>今富や雲浜には小浜地区出身の人が少なくありません。なぜ小浜から出たのか、どうすれば小浜地区に帰るか、聞き取りでもされましたか。そうしないと生きた計画にならないと思います。</p>	<p>市街地は利便性が高く、歩いて暮らせるエリアになっている一方で、車社会である現代においては、郊外においてゆとりのある敷地に居住を構える方も多く見られます。しかしそうした土地では今後、車が利用できなくなった場合に利便性が低下することも懸念されるため、エリア毎に将来の生活像をイメージしてもらうこと、また「このエリアなら将来的にも利便性が確保される」という区域を示すことが必要です。本計画において設定する居住誘導区域・都市機能誘導区域は、そうした将来的に利便性を確保すべき区域を示したものであり、居住地を選択する際の参考にして頂ければと考えています。</p> <p>計画書中に「エリア毎の将来の生活イメージ」を追加し、エリア毎の生活イメージが分かりやすく伝わるよう見直します。</p>
10	居住誘導	<p>重伝建地区で人口が増えているところは皆無です。重伝建と再開発は相容れない関係だと思っています。</p>	<p>エリア毎にまちの特性は異なります。重伝建地区周辺では「歴史的なまちなみと共生した生活」など、まちの特性を活かしながら、エリア毎の生活イメージを考えた上で居住地等を選択していただければと考えています。</p>

1 1	居住誘導	<p>住民の意識を変える努力が必要です。地区の人々は移住者を増やしたりして地区の人口を増やそうという協議をされていますか。いつまでも「よそ者」といつている地区に本当に移住者が根付くでしょうか。自分の地域に定住者を増やそうという努力や意気込みがないと成功しません。</p>	<p>本計画を実行するためには、市民の皆様の協力が不可欠であり、まずは計画の趣旨や目標を分かりやすく伝え、意識を共有することが必要です。計画書中に「エリア毎の将来の生活イメージ」を追加したり、表現を工夫する等、分かりやすい計画づくりに努めます。</p>
1 2	その他	<p>人口減少が続くと、今富や雲浜地区にある多くのアパートが20～30年後には人の住まない幽霊アパートになる可能性があります。こうしたことへの対応も頭に入れておくことが必要と思います。</p>	<p>現在でも空き家対策は課題となっていますが、将来的に人口減少が続くことで、更に深刻化する可能性があります。居住や都市機能の誘導と合わせ、空き家対策や跡地の保全についても、継続的に取り組む必要があると認識しています。</p>